

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

凍結脳を使用したタウ凝集体イメージングプローブ スクリーニングシステムの開発

治療薬探索研究部 リード分子探索研究室長
滝川 修 室長

平成24年3月8日(木) 午後4時00分～
研究所2階会議室

アルツハイマー病（AD）において、タウ蛋白質の凝集は神経細胞死に直結するとされ、その蓄積を非侵襲的にイメージングできるPETプローブ（低分子化合物）が、ADの正確な診断やタウ凝集阻害剤開発のために強く求められている。しかし、臨床応用可能なPETプローブは未だ得られていない。そこで、当研究室はタウ凝集体用PETプローブの新規スクリーニングシステムの開発を行っている。本システムでは、nativeなタウ凝集体に特異的に結合する化合物を得るために凍結AD脳を使用し、さらに化合物ライブラリーのスクリーニングには質量顕微鏡および荷電型半導体イメージセンサーという新技術を応用する。本報告会では本研究プロジェクトの進捗状況を述べる。